

創業から56年目に入った宇陀市大宇陀野依にある株式会社ダイワホーサンは、3年前の平成30(2018)年10月に現在の代表取締役・辻本小百合さん(45)が二代目に就任した。児童用や消防用のライフジャケット、再生紙から出来たカバン、電車のマットや床材、最近ではコロナ患者隔離搬送器「アイソレーター」を製造している。技術と信用に応え、国内自社開発・裁断・製造・販売にこだわる。小百合さんは「地域の人ともしっかりモノづくりを楽しみながら、事業を育てていきたい」と目を輝かせる。

Made
in
奈良

宇陀市 株式会社ダイワホーサン



株式会社ダイワホーサン 代表取締役社長
辻本小百合さん

常に使う側の立場に 立つてのモノづくり

創業者の父・勝次さん(76)は、祖父が作った莫大な借金を背負いながら、寝るのを惜しまず家族ぐるみでモノづくりにまい進功を奏して約8年半かけて完済した。

並みの苦労ではなかったが、昭和41(1966)年に辻本縫工所として創業して以来、同60(1985)年までは粗利が5割、収益性が高かった。そのため、設備投資もスムーズだった。オール木の古い建物の中で、近所の人に来てもらい製造、営業に励んだ。そして、勝次さんは同63(1988)年7月2日に法人化に踏み切った。

父から受け継ぐ経営理念は「働くとは、端(はた)自分の周囲、社会)を楽にする」と。小百合さんは「常に使う側の立場に立ち、モノづくりを通して、社会のお役に立つように日々精進しています」と話す。

アルペンのテクニカルセンターで運動靴の開発をしていた夫の宏季さん(54)とは4年前に結婚。「現在、工場長として従業員さんをまとめる重要な役割を果たしてくれていて、何よりも私が安心しています」と微笑む。



児童用ライフジャケット

かなり率が下がる。それで父が内需に転換して、アデイドス、アシックス、ミズノのカバンをさせてもらった。洗車エプロンとか、自動車用品の世界にも」と多方面に受注を広げていった経緯を説明する。

ふるさと納税品のライフジャケットは、平成23(2011)年の東日本大震災がきっかけとなり、製造も本格的に移動した。現在進行形なのが、船舶用で着ても暑くないライフジャケット。もう一つが再生紙を使ったカバンの事業。「私も社長就任まで工場長、生産部長として現場でミシンをやっていたので、開発には携わっていませんでした」と、社員の開発能力を評価する。

ライフジャケットから新幹線の床材まで幅広く 夢は「将来、工場見学できるような施設に」

百合さん。「開発も1人の考えではなく、現場の人の意見をもらって、現場の人と一緒にさせてもらっています」と強調する。

技術向上の柱は、叔父の故・太次さんのアイデア、実行力が詰まっている。「小さい時は優しかった叔父が、(私が)会社に入ってからすごく怖いんですよ。一緒に仕事してたのに、5回ぐらいしか褒めてもらったことがないんです」と太次さんのことを思い出しながら目頭を熱くする小百合さん。「叔父が社の柱を築いていってくれたので、私たちがそれを太くしないといけないと思います」と気持ちを切り直した。

電車のマット、新幹線やリニアモーターカーの床材もその一つ。今は表示フィルムに変わり、近鉄電車、阪急バス、三重交通など鉄道各社や大手のバス会社からの依頼が次々と。また、困っていることを解決する商品の受注が多いのも特徴。

掛けた感じが軽いかたタブレットが入られるランドセルや車いすの補助具、高級車の日除け用の標準装備のスクリーン。そのほか、防災を防ぐ溶断炉に設置するカバー、鉄道会社の点検員の落下によるけがを防ぐドア専用の転落防止ネットなど。「地味ですが、困っていることを製品にして、それをお届けしているというところが、こだわりでしょ

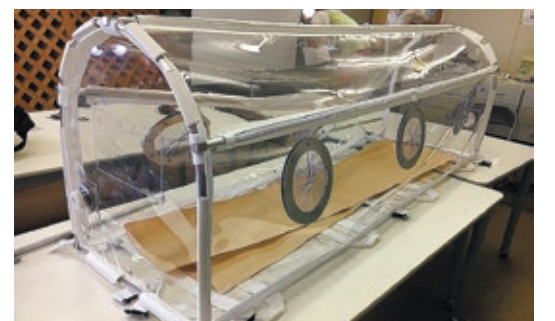
うか。それがコンセプトです」と話す。

カバンは東京の学校にも採用されている。「ドア・トゥー・ドア」で、コロナ禍で外に出なくて済み、同社から発送して保護者宅に直接届けるシステムのため重宝がられている。昨年1校で1000万円の売り上げ。今年もさらに1校増えて、現在東京で広告を出して受注待ちの状態。

ただ、既存の航空会社で使われていた商品、防災系の商品、JR在来線の枕カバーのベージュと優先座席の加工品の大量受注が見込めないでいる。このため、売り上げベースで昨年より15〜15.7%ぐらいの落ち込み。それでも利益は出ており、6月決算でかろうじて黒字の見込み。「今好調なのは列車と自動車です。床材なども今は落ちていませんので」と安堵の表情がちらり。



○創業=昭和41(1966)年3月3日創業
○代表取締役社長=辻本小百合
○従業員数=28人
○資本金=3000万円
○事業内容=カバン関連、列車・自動車用品関連、福祉・介護関連、防災関連の企画開発と製造販売
○本社住所=宇陀市大宇陀野依220-3
○電話番号=0745(83)2785
○ファクス=0745(83)3524



コロナ患者隔離搬送器

レーターの製造依頼が舞い込んできた。これは、救急車の中に透明のカプセルを入れて患者を収容、陰圧装置を付けて菌が漏れ出さないようにして運ぶもので、昨年9月から月平均15台ぐらい作っているという。

自社サイトのほか、近々「楽天」にも登録して商品販売を始める同社。小百合さんは「将来は東京じゃなくてここに工場見学できるような施設を建てて、お客さんをお呼びして、この地域をにぎやかにしたいです。これがみんなの思っている夢です」と話を締めくくった。



<https://daiwahosan.com>